

路は漫々としてそれ修遠なり 吾將に上下して求め索んとす

欧静寧

OU JINGNING

「なぜうまくいかないのだろう」「なぜ失敗だらけのだろう」…現在も就職活動に迷ったり、苦しんだりしている留学生が沢山いると思います。中国の詩句と共に、私の就職活動の経験で、この作文で、就職活動を頑張っている留学生皆様を応援したいと思います。

「路は漫々としてそれ修遠なり、吾まさに上下して求め索んとす」という詩句をご存知でしょうか。"先の道は遠くて長いので、諦めずに、努力を惜しまないで試行錯誤する"という意味です。2300年前の古代中国詩人の屈原の作品ですが、今でも多くの人に感動を与えています。外国人であり、30代になった私には、コロナによって説明会や面接が中止や延期になる厳しい状況が、とても不安でした。しかし、この詩句に感銘を受け、日本での就職活動を乗り越えてきました。もう二度としたくないというのが素直な感想ですが、経験して良かったと思っています。

私が応募した42社のうち、面接へ進めたのは僅か18社でした。私の就職活動を振り返ると、自己分析と企業研究に充てる工夫の大事さを、最も皆様に伝えたいです。

“路は漫々として”という通り、最初に道があり、この道を作るのは皆様です。自己分析と企業研究への工夫はこの道の方向と長さに影響します。なぜなら、自己分析を通して企業選びの指標を明確化でき、企業に自分の魅力を伝えられるためです。仕事はこれから長年月を掛けて付き合っていくもので、好きになれない仕事や、楽しいと思えない仕事を長く続けること程辛いでしょう。「自分は

どのような人か、何をやりたいか」と考える機会はなかったと思いますが、今こそ自問してみてください。例えば音楽を聴くのが好きな場合、どのようなジャンルが好きなのか、そしてなぜ音楽を聴くのが好きだと思うのか、このようなことを深く掘り下げましょう。その上、自分に合う企業を絞る作業も不可欠です。社会には数え切れない会社が存在します。仕事自体は同じでも、企業理念、成長性等は大きく異なっています。そのため、会社内側までの違いを見極めるのは企業研究のポイントです。自分のことをしっかりと理解した上で、会社のことを正しく理解できれば、きっと効率良く就職活動が進むでしょう。

そして、詩句の後半は失敗しても諦めずに、いろんな方法を探究するとのこと。私は志望の会社の面接が失敗だらけで、やる気がなくなった時期がありました。その際に“場数を踏めば”と大学の先生が応援してくれました。面接の回数を増やすと慣れてくるということです。そう考えると、私は応募する順番を変えていれば良かったです。面接が苦手のまま、最初に志望の高い会社に応募すると、落ちるはず。就職活動を早めに開始し、志望しない会社でも積極的に応募し、面接が上手になってから、希望の会社に応募した方が成功率が高いでしょう。

就職活動は辛いと思いますが、旅としましょう。辛さの中にも必ずいい風景があります。転倒しても、諦めずに、繰り返して自身を磨きながら、目標に向けて頑張りましょう。